

## 「キリストによって生かされる」

### Ⅱコリント5章17節。

「ですから、だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました」

4月から3ヵ月間のサバティカル休暇をいただいております。7月から復帰いたしました。早速7月1日から喜楽希楽サービスのお昼のメッセージにも行くようになりました。3ヵ月ぶりの喜楽希楽サービスのお昼ご飯。人気メニューのカレイの煮つけでした。久しぶりにいただきましたら、私のからだにも煮汁が染み渡るようでした。美味しかったです。

私は1Fホールの執務室から福祉館まで走っていくことが多いのですが、久しぶりに走ってみたら、なんだか体が軽くなったような気がいたしました。休暇をいただいて心も体もリフレッシュすることができたということを実感しました。本当に感謝です。3ヵ月間、これまで神様に与えられた恵みを振り返りつつ、充実した時間を過ごすことができました。

サバティカル休暇をいただくにあたって、どうしようかと色々考えました。まずは、ゆっくりと聖書を読んで、祈る時間を大切にしようとか、福祉主事として福祉関係の勉強もしたいな、というようなことを考えました。それに加えて考えたことは、散らかっている家の中を整理整頓したい、ということと、家族と過ごす時間を大切にできれば良いな、ということです。

ついつい怠けてしまうので、計画通りに3ヵ月間を過ごすことができたと言うことはできないかもしれませんが、心と体をリフレッシュするだけでなく、少し勉強もしつつ、家の中もリフレッシュして、また家族との時間を大切にすることもできた、そんな3ヵ月間でした。からだの細胞は3ヵ月でほとんど入れ替わると言われたりもしますが、なんとくからだも新しくなったような気がいたします。

新しくなるということが聖書にも書かれてあります。

### Ⅱコリント5章17節。

「ですから、だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました」

#### 1. 新しくされる

「古いものから新しくされる」。新しくなるというのは気持ちの良いものですし、嬉しさや喜びを感じるものです。私の家でも、いくつかのものを新しくしました。

まずは春の植え替えシーズンということで、観葉植物の鉢植えをひと回り大きな鉢に植え替えをしました。古い鉢から取り出して、古い土を捨てて、腐った根っこがあればそれも取り除きます。それから、新しい鉢に移して、新しい土を入れて、最後にたっぷりの水を注ぎます。観葉植物も喜んでるように見えました。

そしてもう一つは、洗濯機です。我が家の洗濯機は妻が独身時代から使っていた物で、それも知り合いから譲り受けた物で、年季の入った物でした。それでも大事に使っていましたが、洗濯機の汚れが目立つようになってきました。そろそろ変えようかということで、結婚5周年の記念に思い切って洗濯機を新しくいたしました。

私は洗濯担当大臣として非常に喜んで、新しい洗濯機を使わせていただいております。最近の洗濯機は水しぶきの音も美しく感動しています。「シャシャー、シャシャー」と、洗濯をしながら、自分の心までも洗われているような気がしています。

このように、何かが新しくなるということは気持ちの良いものであり、喜びを感じるものです。皆さまも、何か古くなったものを新しくして気持ちが良くなったという経験があるでしょうか。大きいものでは、家をリフォームしたとか、バリアフリーにしたとか、教会でも、牧師館の建て替えが進んでいますし、礼拝堂の壁もキレイに塗り替えたところですよ。

私のように家電を最近買い換えたという方もいらっしゃるでしょうか。身の回りで使っている物とか、スマホを新しくしたとか、いかがでしょうか。ちなみに私はまだガラケーですので、いつスマホに変えようかと悩んでいます。喜楽希楽サービスの利用者の方もスマホに変えている方が多くなっていますので、利用者の方にも相談してみようと思っています。

私たちは、何か新しくなる、新しくするという事を考えると、ある物を新しくするとか、身の回りの環境を新しくするとか、そのようなことを考えてしまいます。しかし聖書では、「その人は新しく造られた者です」といわれます。モノとかコトではなくて、「人が新しく造られる」というのです。ただ細胞レベルで新しくなるのではなく、「人が新しく造られる」という聖書の言葉に私たちは驚きます。

イエス様も人が新しく生まれることについて語っています。イエス様とニコデモという人とのやり取りです。

ヨハネの福音書 3 章 1-7 節。

「さて、パリサイ人の一人で、ニコデモという名の人がいた。ユダヤ人の議員であった。この人が、夜、イエスのもとに来て言った。「先生。私たちは、あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています。神がともにおられなければ、あなたがなさっているこのようなしるしは、だれも行うことができません。」

イエスは答えられた。「まことに、まことに、あなたに言います。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」

ニコデモはイエスに言った。「人は、老いていながら、どうやって生まれることができますか。もう一度、母の胎に入って生まれることなどできるのでしょうか。」

イエスは答えられた。「まことに、まことに、あなたに言います。人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国に入ることはできません。肉によって生まれた者は肉です。御霊によって生まれた者は霊です。あなたがたは新しく生まれなければならない、とわたしが言ったことを不思議に思っはなりません。」

イエス様から「人は新しく生まれなければならない」という言葉を聞いて驚いたニコデモは、「人は、老いていながら、どうやって生まれることができますか。もう一度、母の胎に入って生まれることなどできるのでしょうか」と思わず答えてしまいます。

どうやってもう一度生まれることができるのだろうか。そんなことがあり得るのだろうか。老いてもなお新しく生まれるとはどういうことなのでしょう。

驚くニコデモにイエス様が言いました。

「肉によって生まれた者は肉です。御霊によって生まれた者は霊です」

人は母親から生まれるだけでなく、御霊によって新しく生まれるということを経験するのだと、イエス様は教えます。

そしてイエス様は言いました。「あなたがたは新しく生まれなければならない、とわたしが言ったことを不思議に思っはなりません」

イエス様は、「新しく生まれるということを不思議に思っはならない」と言います。驚くことかもしれませんが、それは御霊の働きによって実際に起こることだということです。確かに不思議なようなことでもありますが、私自身の人生においても実際に起こったことです。

15年前、私は横須賀の教会に不思議と導かれ、それから私の人生が変わりました。不思議な出会いがあり、不思議な導きがありました。

確かに私の人生にも御霊の働きがあったのです。御霊の働きと共に、私を教会に誘い続けてくださった教会の方々がおられて、私のために祈り続けてくださった方々がおら

れました。そのすべての環境が神様によって備えられていたように思います。

そしてただ教会の交わりに導かれただけでなく、聖書の言葉を通して、そして教会のクリスチャンとの交わりを通して、自分の不信仰と罪深さを教えられました。はじめはなかなか自分の罪を認めることができずに、古い自分のままでいいと、生まれ変わることを拒み続けました。

けれども、教会の祈りと御霊の導きの中で、私はついに自分のこれまでの罪を認め、十字架の赦しを受け入れて、イエス様の愛に満たされて、私は新しく生まれ変わったのです。神の愛を知り、神の愛によって生かされる新しい人生へと導かれることになりました。

### I ヨハネ 4 章 9-10 節。

「神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちにいのちを得させてくださいました。それによって神の愛が私たちに示されたのです。

私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、宥めのさげ物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです」

イエス様によって与えられる新しいいのちがあります。母親の胎から生まれるいのちには家族の愛が伴います。そして、イエス様の十字架によって与えられる新しいいのちには神の愛が伴います。「ここに愛があるのです」と言われる通りです。それまで、人間的な愛しか知らなかった私は、神の愛を知ることになりました。

私はサバティカル中、部屋を片付け、身の回りをリフレッシュしました。それだけでなく、自分自身が御霊によって新しくされた者であるということ、今この時、キリストのうちにあって新しく造られた者として生かされているという事実をこれまでの歩みを振り返りつつ、確認する機会となりました。

### II コリント 5 章 17 節。

「ですから、だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました」

この言葉はパウロの言葉です。パウロ自身も御霊の導きの中でイエス・キリストを受け入れ、全く新しく生まれ変わった人です。

生まれ変わる前のパウロは、イエス様を信じるクリスチャンたちを捕らえて迫害していました。しかし、その迫害の最中にイエス様と出会い、イエス様を受け入れて新しく生まれ変わりました。パウロ自身、感動と共に。「だれでもキリストのうちにあるなら、

その人は新しく造られた者」だと語っているのです。

クリスチャンを迫害し、イエス・キリストに敵対していた罪深いパウロが、イエス様に赦され愛されている。パウロは、驚くようなイエス様の赦しと愛のうちに、新しいいのちを与えられ、生かされているのです。

#### ローマ 5 章 8 節。

「しかし、私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死なれたことによって、神は私たちに対するご自分の愛を明らかにしておられます」

これはパウロの言葉ですが、私の信仰告白でもあります。私自身、イエス様のことを知らずに、自分勝手に歩んできたことを振り返りつつ、そんな罪人の私が御霊に導かれて、イエス様のあわれみと大きな愛のゆえに罪赦されて新しいいのちに生かされていること、ただただ感謝しつつ、その大きな愛とめぐみを受け取ることしかできません。

大きな愛を知ったパウロは I コリント 13 章の「愛の章」を書き残しました。最後の 1 節にはこうあります。

#### I コリント 13 章 13 節。

「こういうわけで、いつまでも残るのは信仰と希望と愛、これら三つです。その中で一番すぐれているのは愛です」

そして、14 章 1 節にはこうあります。

#### I コリント 14 章 1 節。「愛を追い求めなさい」

神の愛を知り、新しく生まれ変わったパウロのことばです。「愛を追い求めなさい」。「追い求める」という言葉には、捕らえるという意味もあります。クリスチャンを一生懸命に迫害するために捕らえていたパウロの言葉です。

人を愛することを知らずに、人を捕らえることに熱心であったパウロが、新しく生まれ変わり、愛することを教えられ、愛を追い求めることに熱心な人生へと変えられたのです。

私自身も、新しく生まれる前は、この世界を造られた神様のことを知らず、イエス様の十字架を知らず、自分勝手に、好き勝手に、自分のことばかり考えて、自分の利益ばかりを追い求めていました。しかし、新しく生まれた私は、神の愛を知り、愛を追い求めるようにと導かれるのです。

「愛を追い求めなさい」。私たちが新しい人として生きているかどうかを見分ける基

準はキリストの愛によって生かされているかどうかです。

愛によって生きるとは、自分勝手に生きる古いいのちを捨てて、神を愛し、人を愛するという新しいのちに生きるということです。

## 2. 新しい戒めを与えられて

先週7月7日は七夕の日でした。喜楽希楽サービスでは七夕そうめんをいただきました。そうめんは織姫の織物の糸とか、織姫と彦星を結ぶ糸を表しているようです。皆さんとそうめんをいただきながら、少しロマンチックな雰囲気になりました。

七夕そうめんではありませんが、神の愛は神と人とを結ぶ愛であり、人と人を結ぶ愛です。

### コロサイ 3章 12-14節。

「ですから、あなたがたは神に選ばれた者、聖なる者、愛されている者として、深い慈愛の心、親切、謙遜、柔和、寛容を着なさい。

互いに忍耐し合い、だれかがほかの人に不満を抱いたとしても、互いに赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたもそうしなさい。

そして、これらすべての上に、愛を着けなさい。愛は結びの帯として完全です」

新しく造られた人は、愛という結びの帯を身に付けます。そして私たち教会の、神の家族の交わりは、愛によって結ばれた交わりです。この愛は特別なものであり、不思議なものです。

私が初めて教会に行ったときに感じた、今まで経験したことのないような温かさは、この愛が教会に溢れていたのだと思います。私を喜んで歓迎してくれた青年たちがいました。私の父親や母親のような存在になってくださった方々がおられました。

そして今、めぐみ教会の皆さんが愛によって結ばれた私の家族です。

15年前たった一人で教会に導かれましたが、横須賀の教会で神の家族に加えられて、6年前にはめぐみ教会の神の家族に加えられて、そして妻も与えられ、娘も与えられました。神の愛の豊かさを経験しています。

サバティカル期間中に、久しぶりに横須賀の実家に帰ることができました。去年は帰りませんでしたので、2年ぶりの帰省でした。めぐみ教会で与えられた妻と娘を連れて帰りました。私がクリスチャンになるということで、心配していた家族も今では喜んでいるのではないかと思います。これからも神様のめぐみを証しすることができればと思います。

2年ぶりに横須賀の実家で楽しい時間を過ごしながらも、なかなか会うことのできな

い喜楽希楽会の神の家族の一人ひとりのことも気になりました。そして、土浦に帰ってから手紙を書きました。横須賀の実家もちろんですが、なかなか会えなくとも気になる神の家族がいます。私の周りには愛すべき人がたくさんいます。そして私は多くの人に愛されています。

15年前、たったひとりだった私が、こんなにも豊かな神の家族に恵まれている。クリスチャンになって良かったなど心から思うのです。

新しく生まれた私には、愛すべき神の家族が与えられました。人間関係が変わりました。古い私は、自分中心で、友人がいたとしても、結局は自分のことばかり考えていました。しかし、イエス様が新しい愛の関係を教えてくださったのです。

私たちは、自分のためにではなくて、人のために、相手のために、しもべのように、仕えるようにして、互いに尊重し合い、助け合い、赦し合い、愛し合うということを教えられました。

#### ヨハネの福音書 13 章 14-15 節。

「主であり、師であるこのわたしが、あなたがたの足を洗ったのであれば、あなたがたもまた、互いに足を洗い合わなければなりません。

わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするようにと、あなたがたに模範を示したのです」

#### ヨハネの福音書 13 章 34 節。

「わたしはあなたがたに新しい戒めを与えます。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」

新しい人に与えられる新しい戒めです。キリストにあって新しく造られた者の新しい歩みがあります。愛を追い求めること。互いに愛し合うこと。それは共に生きるということなのです。

### 3. 主と共に、聖霊の力を受けて、希望に満たされて

私には可愛い娘がおります。産まれたばかりの小さな娘が、少しずつ大きくなって今では元気にマナに通っています。毎日毎日、妻と一緒に一生懸命に育ててきました。

娘の姿を見ますと、「やっぱり可愛いなー」という思いと共に、「いやーたいへんだったなー」という思いが複雑にあふれてきます。

これまで娘と共に毎日生きてきました。色々な経験をしました。夜中に病院に連れて

行ったり、何か飲み込んでしまって心配していたらそれがうんちで出てきたり、もちろん楽しい経験もいっぱいあります。

そんな娘との日々の歩みを通して、新しく生まれた私自身の歩みについて考えさせられます。私が娘とこれまで歩んできたのと同じように、新しく造られた私もイエス様と共に日々、今日まで歩んできたのだなと振り返るのです。

娘にとって親がいたからこそ、ここまで生きることができたのと同じように、この私もイエス様がいたからこそ、今日までこのようにして歩むことができていたのだなと気づかされるのです。

サバティカル中に娘と一緒に家族3人で筑波山に行ってきました。娘にとって初めての経験でした。同じように私たちにとっても娘と筑波山に行くというのは初めての経験です。いつも車の中から筑波山を見て、「あれが筑波山だ」という話はしていました。いつも見ている筑波山に登るというのは不思議な体験だったのかもしれない。

さすがに歩いて登るのはたいへんそうでしたので、ケーブルカーとロープウェイに乗りました。それでも、大きな階段を何段も登ったり、ケーブルカーの駅からロープウェイの駅まで20分くらいの山道を歩きました。最初は水たまりを慎重に避けながら、途中から喜んで水たまりに入りながら、大きな岩を乗り越えたりしながら、そしてロープウェイの駅でひと休みです。

### <写真1>

大きなアイスを持って、売店の前で座り込んでしまいました。

### <写真2>

そのあとはちゃんとベンチに座って、景色を見ながら、甘いアイスを味わいました。

それから、ロープウェイに乗って降りていきました。最後の楽しみはつつじヶ丘から乗ったバスでした。バスで登園していない娘はいつもマナバスをみながら、バスに乗りたいたって言っていました。その夢が叶って、マナバスよりも大きなバスに乗ることができました。

そんな楽しい筑波山の旅を思い出します。当然のことながら、娘一人ではできない経験ですし、私たちにとっては娘がいたからこそその経験だったなと思うのです。

娘一人では、ケーブルカーにも乗れないし、山道も歩けないし、アイスも食べられないだろうし、大きなバスにも乗ることもできません。でも家族と一緒に経験することができました。娘はきっと、親と一緒に色んな所へ行けるし、色んなことができるし、



アイスも買えるし、色んな楽しいことがあると思っっているんじゃないかなと思います。

同じように、イエス様によって新しいいのちを与えられて、生かされているこの私の人生の旅路も、イエス様が共にいてくださるからこそ導かれる歩みがあるのだということに気づかされます。

私一人では進むことのできない道も、イエス様が共にいてくだされば進むことができます。山道のような険しい旅路も、イエス様が私の手を取って共に歩いてくださる。そしてときには、娘がアイスを味わったように、イエス様が与えてくださる恵みを味わうことができます。

イエス様は確かに私たちを導いてくださるお方です。弟子たちもそのことを経験しました。

#### マタイ 4章 19節。

「イエスは彼らに言われた。「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしてあげよう。」」

弟子たちは「わたしについて来なさい」とイエス様に声をかけられて、イエス様と共に歩み新しい人生がはじまりました。そしてイエス様と共に、色々な経験をし、神の愛を教えられ、多くの奇跡も目の当たりにしました。弟子たちはイエス様と共に、そして聖霊の力を受けて、主の愛を現す生涯を全うしたのです。

同じようにパウロもイエス様と出会い、イエス様によって新しくされ、聖霊の力を受けて、新しい歩みへと導かれました。

#### ローマ 15章 13節

「どうか、希望の神が、信仰によるすべての喜びと平安であなたがたを満たし、聖霊の力によって希望にあふれさせてくださいますように」

パウロの言葉です。新しいいのちを受けて、イエス様と共に、聖霊の力を受けて生きることは希望にあふれるのだと言います。

実際には、弟子たちもそうでしたが、迫害に会うことがあり、様々な困難、苦労を経験することもありました。しかし、パウロは希望を持っていたのです。

そして私たちも、弟子たちやパウロと同じように新しく造られた者として、希望を持って生きることができるのです。

#### Ⅱコリント 5章 17節。

「ですから、だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました」

私は新しく造られてここまで導かれてきました。神の愛を知り、そして互いに愛するようにと、愛すべき人たちが与えられて共に生きてきました。そして、イエス様と共に、聖霊の力を受けつつ、歩んできました。

さあ、これからどこに行くんだろうかと、ワクワクしつつ、ドキドキしながら、きっと良いことがあるだろう期待と信頼を持って、親についていく娘のように、私もイエス様に導かれて、これからどこに行くんだろうかと、ワクワクしつつ、ドキドキしながら、期待と信頼を持って歩んでいきたいと思います。